

第10回伊達市総合教育会議 会 議 録

1 日 時

開 会 令和4年2月3日(木) 15時00分
閉 会 令和4年2月3日(木) 16時30分

2 場 所

市役所本庁舎 2階会議室A・B

3 出席者氏名

伊達市長	菊 谷 秀 吉
伊達市教育委員会教育長	影 山 吉 則
委 員	早 瀬 芳 宏
委 員	平 田 賢 弘
委 員	岩 本 秀 一
委 員	大 西 稚 子
北海道伊達開来高等学校長 (オブザーバー)	相 馬 利 幸

4 欠席した教育委員の氏名

なし

5 会議に出席した職員の職氏名

市長部局	
企画財政部長	岡 村 崇 央
企画財政課長	水 野 一 英
企画財政課企画調整係長	堀 将 巳
教育委員会	
教育部長	星 洋 昭
教育部参与	櫻 井 貴 志
学校教育課長	安 藤 隆
生涯学習課長	上 山 昭 二
図書館長	竹 迫 知 美
だて歴史文化ミュージアム館長	石 澤 高 幸
指導室参事	林 毅 年
指導室主査	藤 田 勲
学校教育課企画総務係長	渡 邊 純 一

開 会 （15時00分）

◎水野企画財政課長

本日は、お忙しいところお集りいただき誠にありがとうございます。ただいまから、第10回伊達市総合教育会議を始めさせていただきます。本会議は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4第1項に基づき協議するものです。それでは、これより先の進行は菊谷市長よりお願いいたします。

◎菊谷市長

それでは、さっそく議事を進めさせていただきます。

本日の会議に付す事件は、報告第1号から報告第2号までの2案件です。皆さまからさまざまなご意見を賜りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは、報告第1号「伊達市立学校のG I G Aスクールの取組について」を指導室参事より説明いたします。

◎林指導室参事

それでは、わたくしより、伊達市立学校におけるG I G Aスクールの取組の状況についてご説明いたします。

まず、説明の前に大規模校、小規模校の取組の例として、伊達小学校、関内小学校のタブレット、オンラインを活用した学習の様子について、動画をご覧いただきたいと思えます。初めに、伊達小学校の日常的なタブレット機器を活用した授業の様子。続けて、関内小学校と大滝徳舜警学校による、遠隔交流学习の様子です。

（動画視聴）

今、ご覧いただいた授業は、学校での子どもたちによる機器の活用の様子でしたが、家庭へ持ち帰った状況でのオンライン授業の取組については、一人一台端末の学校における活用に慣れてきた6月から各校において順次開始しております。画面に掲載の通り、全校で年4回程度実施することとし、必要に応じて家庭へインターネット接続機器を貸し出ししております。児童生徒だけでなく、教職員も含めての習熟期間を4つに分け、回数を追うごとに接続・操作に慣れていくように、という狙いでございます。現在はちょうど応用期間にあたる状況でございます。どの学校においても、次年度、また、今後の休校等にそなえ、スムーズな接続、学習ができるようになってきたな、というところでございます。この取組を含め、今年度はペーパーに記載しております通り、伊達市教委としまして概ね6点の取組を進めております。

休校等、非常時に、子どもたちの学びを止めず、スムーズにオンライン学習に移行するためには、当然平時の準備が欠かせませんが、学校において、例えば防災活動や避難訓練を形骸化しない考え方と同一にしまして、各校において日常的に授業等で活用いただいております。

こちらのページは、実際昨年、新型コロナウイルス感染症のクラスターに認定され、8月31日より臨時休業となった、伊達小学校のオンライン授業に関する新聞記事です。伊達小学校では、学校で「推進チーム」を立ち上げ、継続的かつ日常的な活用の取組を進めていたことから、臨時休業の決定後、教育委員会に、すぐさまオンライン授業を実施したい旨のご連絡があり、教育委員会として、テザリング端末17台を貸与し、9月2日からスムーズにオンライン学習を実施することができました。

こちらは、先ほど冒頭のVTRで見ていただいた、小規模校の取組の工夫についてでご

ございます。小規模校は、学校の在籍人数が少ないその特性上、一人一人に目が行き届き、きめ細やかな教育・指導が行えるメリットがある反面、長らく集団規模が小さいことから、コミュニケーション、特に、自分の思いを他者・友達に伝える経験や、集団の中で、自分以外の多様な考え方や見方に触れる経験が、どうしても、少なくなる課題がございます。今年度、関内小学校と大滝徳舜警学校、長和小学校では、年間複数回の遠隔交流学习、いわゆる遠隔授業を実施しており、このことで、同年代の多人数と触れ合って、「対話や議論を深める経験」や、「たくさんの人数を相手に発表する経験」を積み重ね、子どもたちに、相手意識やコミュニケーション能力のさらなる育成を目指しているところです。

こちらのページと、次のページは、日常的に端末を活用いただき、学習効果を高めている各学校の授業の様子でございます。ご覧いただけますように、学習への活用に関しては、端末内の学習用プラットフォームを活用し、一教科に偏ることなく、その教科の特性に合わせて、効果的な活用方法を模索しながら、行っていただいております。また、授業だけでなく、例えば、朝の時間に体温や健康状況を継続して入力したり、中学校では、生徒会や学校行事でも、生徒自らが活用したりしている事例があると伺っております。

そのほか、東小学校では、ふるさと姉妹都市の亘理町の亘理小学校と例年交流を行っておりますが、今般のコロナウイルスの影響により、行き来ができなくなったことから、今年度はオンラインでの交流を行いました。また、授業参観をオンラインで行ったり、なかなか校外学習も行きにくい状況ではありますので、地域の方とオンラインでつながったりする取り組みも学校によっては行っております。現在までの取組状況に関する説明は、以上となります。

今後の取組としましては、大きく一つ目が、タブレット型端末の有効性を十分生かす授業改善を各学校において更に前に進めること。これは、端末のみをがむしゃらに使うということではなく、当然今ある機器をどのようにさらに有効活用するか、そして、デジタルのよさを生かしたデジタル教科書、教材の活用、さらに、今までの教育の現場を支えてきた、「読み」「書き」「そろばん」といった、基礎・基本の定着のための、リアルな書く、読む、触る、体験するという良さをベストミックスした、ハイブリッドな学習を目指すということです。

二つ目がウィズコロナ、ポストコロナの取組を前に進めることです。このコロナ禍において、学校現場の先生方が前に進めてくださっている、対面型授業やオンライン型の授業を、状況に合わせてミックスしていくこと。そして、先ほどの授業改善と併せ、リアルなつながりや経験、学びと、家庭や地域・他校などとのオンラインでのつながりや連携を、教育課程において、十分に考慮して計画し、最適な教育課程、授業に、絶えず改善していくことです。このほかにも、教育委員会としましては、校務支援システムを導入することによる、教職員の業務改善や効率化、また、児童生徒の情報や学びの共有化、現在も取組を続けております、オンライン学習の継続。そして、今後は不登校や長期欠席、出席停止となっている児童生徒へ、端末を活用した学びをどのように保障していくか、など、取組を前に進めていく予定でございます。

説明は以上でございます。

◎菊谷市長

ただいま説明がありましたが、ご質問、ご意見はございませんか。

◎早瀬委員

先日、子どもの通う学校でコロナにかかった子が出まして、学級閉鎖になったのですが、

タブレットを持ち帰り、学習を行い、体温報告も行っていました。今のところ子どもたちはスムーズに受け入れていると思いますが、学校の先生も使いこなせているのか、また、外部の支援員の方がいると伺っていますが、どのような支援をしているのでしょうか。

◎櫻井教育部参与

I C T支援員を3名配置し、各学校を回っていただいています。授業時に疑問が出た際に指導してもらったりしています。また、我々の強みとしては、支援員が良い学校の取組を各学校に広めてくれるので、全体的にレベルが上がってきていると考えておりますし、若手を中心にチームを作って他の先生方に還元していくスタイルも取らせていただいています。

◎岩本委員

オンライン学習について子どもたちは大分慣れてきていると感じますが、保護者の立場からすると、コロナの影響で、子どもが中学校に入学してから一回も中学校に入っていない。せっかくオンラインの環境があるので、オンライン授業参観やオンライン家庭訪問など、今の保護者の方は学校の先生方と関わる機会が閉ざされ、受験等がある時には特に不安になるところもあると思いますので、オンラインを保護者に向けて活用できる機会があればと思います。

◎櫻井教育部参与

各学校で取組は行っており、修学旅行の説明会を行ったり、授業の様子を見ていただいたりしていますので、今後さらにつなげていければと思っております。

◎大西委員

知り合いの子がオンラインの授業をした時に、クリックするところがわからず、子どももお母さんも困ったという話を聞きました。常にネットの環境にいない親もいると思いますので、そういう方にも入りやすい環境であればと思いました。

◎櫻井教育部参与

全くその通りと思います。ですので、教頭会にお願いして、簡単にログインできる方法を記載したプリントを各家庭に配付しております。クリックの場所等については、低学年になればなるほど難しいことなので、そのために先生方も研修をしていると思いますし、ネット環境の無い方についても、スマートフォンを用意してお貸しし、先程参事より説明のあった年4回程度の取組により、少しずつ成長していくのではと考えています。

◎菊谷市長

それぞれ成功も失敗もあって、そういうのを出し合ってやることで成長も早くなるのではと思います。

◎平田委員

3点ありまして、オンライン授業は45分から50分ということですが、低学年の子に適しているのか。テザリングの機器が休校時には学校から貸し出されるとのことですが、台数が足りているのか。不登校の子や長期に出席していない子のオンライン授業の関わりについて伺えればと思います。

◎櫻井教育部参与

授業時間については、授業を行う先生も学ぶ児童生徒も45分から50分というのはとても大変ですが、短い時間で終わる学習内容ではありませんので、そのために光陵中の学級閉鎖時には午前は2時間程度で、午後からは1時間程度で調整するなど、授業時間も含めて適切になるよう訓練させていただいております。テザリングの機器については、4月に

全家庭にアンケートを取らせていただいて、学校での最大で二十数台でしたので30台を用意しておりますし、先日の学級閉鎖時にもスムーズに対応できてますので問題無いと考えております。不登校のお子様については、アプローチの仕方が非常に難しいと考えており、我々としては、1番はフェニックスに来ていただくことですが、フェニックスに来られないお子様にどのようにアプローチして授業に参加するのか、授業の参加の仕方も顔を出さなくても参加できるので、まずはそこからではないかと考えております。難しい試みではありますが、不登校の子どもたちを救っていくこともやらせていただきたいと思います。

また、北黄金貝塚の紹介ビデオを作成しましたが、それが30分程度で全小中学生が見れるように設定しますし、不登校のお子様にも配信することで授業の様子も見ていただくことが大事だと考えています。学校に来ることも大事ですが、社会との関わりを失くしてしまうのは危険なことです。まずは家ででも学校の様子を感じていただけるように我々としては考えていきたいと思っております。

◎菊谷市長

他にご意見ありますか。

◎岩本委員

オンライン授業については、授業時数に数えられるのでしょうか。

◎櫻井教育部参与

しっかりした計画を我々は作成し、計画に則って45分、50分の授業を行っていますので、市教委で判断し、授業時数にカウントしております。

◎菊谷市長

年4回の取組について増やすことは可能なのでしょうか。

◎櫻井教育部参与

現状では、用意している30台の端末を各学校の実施時に合わせて使用していますので、年4回程度の実施となっております。

◎早瀬委員

オンライン学習時に、教科書の学習内容とクロムブックについては、どのように連携しているのでしょうか。また、デジタル教科書については、どのように考えているのでしょうか。

◎櫻井教育部参与

まなびポケットというアプリを使うことにより、全市共通で学習を行っています。デジタル教科書については現状では有償のため、国や道の指定を受けて、ある教科だけデジタルを使うという体制を取っており、慣れていけばメリットもあると思いますが、まだその段階ではないと考えています。

◎菊谷市長

他にご質問、ご意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎菊谷市長

それでは、報告第1号につきましては、報告として取扱いたいと思います。

次に、報告第2号「北海道伊達開来高等学校の取組について」を学校教育課長より説明いたします。

◎安藤学校教育課長

それでは、報告第2号「北海道伊達開来高等学校の取組について」であります。本日は伊達開来高等学校の相馬校長にオブザーバーとして参加いただいておりますので、相馬校長の方から説明いただきたいと思います。

◎相馬校長

それでは、伊達開来高等学校開校1年ということで説明させていただきます。

(配付資料に基づき説明)

◎菊谷市長

ただいま説明がありましたが、ご質問、ご意見はございませんか。

◎平田委員

選択科目の説明があり、科目数が多いというのはとても良いことだと思いますが、進学に伴う生徒のいろいろなニーズに応えることができるということでしょうか。

◎相馬校長

進学につきましては、どのような進路にも対応できる科目が揃っています。

◎平田委員

部活動の地域移行の現状、進学の希望割合、出願状況を教えてください。

◎相馬校長

部活動の地域移行については、正直あまり進んでいませんが、部活動指導員という専門的なスキルを持っている方を北海道が任用して来ていただいているのですが、本校では2つの部活動で活用しております。また、部活を積極的にやりたいという先生もおり、自前から地域にとまっていない現状です。

1年生の進学については、4年制の国公立大学・私立大学、専門学校について、6割から7割の生徒が希望しております。伊達高校時には就職と進学の割合が半々でしたが、現状ではこのような状況になっております。

募集の関係につきましては、当初出願で194名となっております。

◎大西委員

自分の子どもを塾に通わせた時にそれなりの負担がありましたが、開来高校の代ゼミ講習がこのように受けられるということをもっと保護者にもっと周知することが必要だと思います。

◎岩本委員

あとは、卒業生が結果をどう出して、進学につなげて、初めて答えが出てくると思いますが、伊達でこれだけの教育が受けられるということをもっと保護者の方にアピールできればと思います。

◎菊谷市長

今回のような開来高校の取組についての説明を、中学1年生の早い段階から保護者に説明することも必要だと思います。

◎早瀬委員

代ゼミの講習については、進学探究クラスでなくても受けられるのでしょうか。また、選択科目が多いとの事ですが、受講の無い科目もあるのでしょうか。

◎相馬校長

進学探究クラスは選抜となりますが、進学探究クラスの生徒でなくても受けることができます。実際に、入学時は進学探究クラス希望ではなかったものの、代ゼミ講習の受講希望はある生徒もおり、現在68名の生徒が受講しております。

また、科目については、生徒の希望を取った結果、受講の無い科目はあります。

◎菊谷市長

他にご質問、ご意見はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎菊谷市長

それでは、報告第2号につきましては、報告として取扱いたいと思います。

以上で、本日の日程はすべて終了いたします。

◎水野企画財政課長

これをもちまして、第10回伊達市総合教育会議を閉会いたします。

閉 会 （16時30分）